

みなさんこんにちは、【S】です。

梅雨というと、灰色の空やどんよりした雲…、そんな憂鬱なイメージを持つ方も多いかと思
います。この時期は子育てをしていますが、ついイライラしてしまうことはないでしょうか？

でも、日本語には、梅雨の印象を変えてくれる美しい梅雨の言葉がたくさん存在します。言
葉一つで印象は変わります。梅雨を五月雨や黄梅の雨と言い換えると、なんだか風流な雰
囲気が漂ってきませんか？

今回は、梅雨の時期を少しでもリラックスして過ごせるような情報をお届けします。

(1) 五月雨 (さみだれ)

陰暦5月ごろに降る長雨のこと。「さ」は五月(さつき)、「みだれ」は水垂(みだれ)
を指しています。

(2) 黄梅の雨 (こうばいのあめ)

黄梅の雨とは、梅の実が黄色く熟すころに降る雨。つまり梅雨のことです。「つゆ」
という言葉に「梅」という漢字が当てられているのは、青から黄へ色を変えていく梅
の実が、この時期にちょうど熟れるからだと言われています。

梅雨時期のぐずついた気候を、ときに億劫に感じることもあるかもしれませんが、梅
雨ではなく黄梅の雨。青々と若い梅の実が、黄色く穏やかな色へと変わりゆく季節。
そう捉えると、長雨の中、着実に季節の移ろいを感じられます。

(3) 五月晴れ (さつきばれ)

梅雨中の晴れ間のこと。しかし、今では「5月のすがすがしい晴れ」を指す言葉とし
ても使われているようです。詳しくは↓

[NHK 放送文化研究所「五月晴れ」の使い方は？」](#)

(4) 梅雨葵 (つゆあおい)

タチアオイという花の別名。梅雨を代表する花といえば紫陽花(あじさい)を思い浮
かべる方も多いかと思いますが、タチアオイも梅雨に咲く花です。まっすぐ伸びた長
い花茎に、ハイビスカスのような大きな花を咲かせます。

「タチアオイの花がてっぺんまで咲くと梅雨が明ける」と小学生の時に教わったのを
覚えています。

花は一気に咲かず、下から上へと二ヶ月くらいかけてゆっくりと咲き進みます。下の
花が咲くころに梅雨入りをし、一番上の花が咲いたら梅雨明けというように、タチア
オイの咲き方を見れば、梅雨の進み方が分かるのです。

花を愛でるうちに梅雨が明ける…。こういった先人の知恵や感性を、これからも大切
にしていきたいものです。

今回参考にした本：『雨のことば辞典』 倉島厚・原田稔 編著 (講談社学術文庫)

今回は「梅雨」にまつわる言葉のほんの一部を紹介しましたが、「雨」にまつわる日本語は
約1200種類もあるそうです。これだけ種類があるということは、先人は「雨」の降る時
期、降る時間帯、降り方などの違いをそれぞれ認識していたということになります。

みなさんも、いつもとはちょっと違った季節の楽しみ方の方法の一つとして、こういった雨

の降り方などの違いを見つけてみたり、「今降っている雨はなんていう名前なんだろう？」と考えてみたりしてはいかがでしょう。SNSでも様々な言葉を取り入れ、写真だけでなく言葉でも「映え」してみるのもいいのでは…。

ちなみに、雨上がりに時々目にする虹ですが、日本では広く7色と認識されていますが、アフリカの一部部族では8色、アメリカは6色、ロシアは4色、モンゴルは3色、南アジアのバイガ族は赤と黒の2色なんだそうです。（見え方だけでなく、色を表現する言葉の有無などの理由から。）

子育てに関する悩みを一緒に考えます☆
子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/
kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★